

第3章 子どもの読書活動推進のための取組

1 家庭で子どもの読書活動を進めるために

(1) 家庭の役割

子どもが読書習慣を形成していく上で、最も影響力を持つのが家庭です。家庭は、子どもにとって安らぎの場であり、憩いの場です。赤ちゃんや小さな子どもは、自分で本を読むことができなくても、大好きな父母や家族に絵本を読んでもらったり、話しかけてもらうことにより、幸せな時間を築き、本を読む楽しさを知ります。

また、家族で一緒に本を読んだり、家族で感動した本や楽しかった本を紹介し合う、感想を述べ合うなどの読書活動は、子どもが読書に親しみ、本と出会うきっかけを作ります。さらに、親子の絆を深め、親子のコミュニケーションを円滑にします。

家庭での読書活動が、日常的に継続して行われることにより、子どもの読書習慣は、自然と身に付いていきます。家庭は、子どもの読書活動の入り口となります。

(2) 現状と課題

野辺地町の小学生と中学生のアンケート調査によると、本を好きになった理由のキーワードの一つが「家庭」でした。「本が家にあったから」「家の人の本好きだから」「家族に本を読んでもらった」「家族に本を紹介してもらった」などです。一番身近な家族の影響は大きいと言えます。

● 保護者の読書量

園児・小学生の保護者（アンケート回答率77%）の1ヵ月で一冊も本を読まなかった保護者は、全国の52%に対し34%と低くなっています。また、1ヵ月の読書量は「1～3冊」が最も多く57%で、全国の35%より高くなっています。「1ヵ月の読書量の多い保護者は、自分の子どもも、本を読むことが好きだと思う」傾向にありました。

● 保護者の読書の好き嫌いとお子さんの本好きとの関係

読書が「好き」「どちらかといえば好き」を合わせると68%の保護者は読書が好きと答えています。保護者の読書の好き嫌いに関わらず、子どもが本を好きな割合は高くなっていますが、保護者が本を読むことが好きだと子どもも本を好きになる傾向にありました。

● 保護者が1ヵ月に本を1冊も読まなかった理由

読書が好きであると回答した保護者が多いにも関わらず、実際には「仕事や家事で忙しいから」と言った理由から、1ヵ月に1冊も本を読まなかったと回答した保護者が77%にのびりました。日常生活を通して親も読書習慣を形成し、読書に親しむ生活態度を身につけていくように配慮することが大切ですが、実際には、忙しくて読書の時間を取れない状況にあります。

● 読み聞かせについて

アンケートに回答（回答率73%）してくれた園児の保護者の93%は、自分の子どもは本が「好き」「どちらかといえば好き」と回答していますが、園児の保護者の95%は、頻度にかかわらず読み聞かせを行っており、読み聞かせの頻度の多い保護者ほど、「自分の子

子どもが本を好きであると思う」割合が高くなっています。

読み聞かせをしている一番多かった理由やきっかけは、「子どもが絵本を読んでほしいと望んだ」でした。その他の理由は、「夜読んであげると楽しく眠りにつける」「子どもが喜ぶ、楽しそうだから」「親子のコミュニケーション」「想像力や感受性が豊かになる」「情操によい」等でした。

読み聞かせを行っていない最も多い理由は、「読むのが面倒だから」69%、次に「時間がないから」23%でした。読み聞かせが保護者の負担とならないように配慮しながら、読み聞かせにより、文学、美術、人生の入り口とされる絵本と子どもを会わせることの大切さの理解を求めていくことが必要です。また、読み聞かせで共有する時間の楽しさや読み聞かせの素晴らしさを伝えていくことも大事です。

● 図書館を利用するか

「よく行く」「時々行く」保護者は34%で、「ほとんど行かない」「行かない」保護者は66%となっています。図書館を利用しない理由は「忙しくて時間がないから」57%、「本を買って読むから」34%、「本を借りたり返したりするのが面倒だから」25%等になっています。開館時間の延長や祝日開館、図書館利用促進のためのPR、図書や雑誌、視聴覚資料の充実が求められています。

一方、子どもの読書を進めるために「図書館に連れて行く」と回答した保護者は35%でした。図書館を利用する保護者の子どもも図書館を利用する割合が高い傾向にありました。

● 読書が大切であるか

アンケートで99%の保護者は「読書が大切である」と回答しています。アンケートに回答しなかった保護者23%は、子どもの読書に対しての関心が低いことも理由の一つと考えられます。子どもの読書活動の大切さの理解と関心を深める啓発が必要です。

● 家庭で読書推進のために行ったこと（複数回答）

校種別保護者 選択肢	園児保護者合計		小学生保護者合計		保護者合計	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合
本を買ってあげる	146名	51%	276名	51%	422名	51%
親が子どもに本の読み聞かせをする	179名	62%	191名	35%	370名	44%
図書館に連れて行く	96名	33%	197名	36%	293名	35%
親が読書している姿を見せる	47名	16%	94名	17%	141名	17%
家にたくさん本を置く	61名	21%	80名	15%	141名	17%
同じ時間に親子一緒に読書をする	36名	13%	64名	12%	100名	12%
本についての話をする	33名	11%	83名	15%	116名	14%
おはなし会などの行事に参加させる	27名	9%	50名	9%	77名	9%



(3) 家庭に期待する具体的な取組内容

子どもも保護者も忙しい毎日を過ごしているため、家庭で読書の時間を設けることが難しい現状にありますが、次のような取組を行うことで、家庭では、子どもの読書活動を進めることが望まれます。

① 子どもが読書に出会い親しむ機会作り

● 家読（うちどく）日を設けて、家族で読書タイムを楽しむ

現在、全国的に家読（うちどく）が広がりを見せています。野辺地町でも、親子で読書をする読書デー（ウイーク）を設けている小学校があります。ゲーム・テレビ・ビデオなどを控え、家族で読書を楽しむ日や時間を設けることも大切です。

● 子どもにおはなしを語ったり、絵本を読んであげる時間をもつ

10分位の短時間でも、寝る前やお膝に抱っこで、家族から絵本を読んでもらったり、昔話などを語ってもらうなどのスキンシップを通し、子どもは幸せに満ちます。父母などの肉声の言葉は、子どもの心に安心感をもたらします。子どもは、家族との幸福の時間をもつことで、読書の喜びを感じ、読書を楽しみ体験として、心に刻んでいきます。



● 毎日短い時間でも読書する時間を持つ

学校における「朝の読書」は、10分位という短い時間にもかかわらず、毎日行うことにより、子どもの読書習慣が形成されています。家庭においては、就寝前などに、ごく短い時間でも楽しい読書の時間を持つことは、家庭での読書習慣が身に付いていきます。

● 親が読書をしている姿を子どもに見せる

子どもは親の背中を見て育つといえます。親が日常的に読書に親しんでいる姿に影響され、子どもも読書は楽しいものだという意識が育ち、自分でも本を手取るようになります。

● 親子で一緒に本を読み、読書に関する共通の話題を楽しむ

親子それぞれの本を楽しんだり、時には、親子で同じ本を読んで、感動や喜びを分かちあう、本の紹介をし合うなどは、本に親しみ、本に出会うきっかけとなり、さらに、親子の触れ合いやコミュニケーションを深めます。

● 家族で、おはなし会や読み聞かせの行事に参加する

家庭で絵本などを読んであげられない時などは、図書館などで行っている、おはなし会などを利用することも有効です。本を楽しみ、本に出会うきっかけになります。

② 子どもの読書環境作り

● 家庭に本がある環境作りと家族一緒の図書館利用のすすめ

アンケート調査では、子どもの読書を進めるために行ったこととして、「子どもに本を買ってあげる」と回答した保護者が51%と半数にのぼりました。身近に本がある環境は、子どもが本に興味や関心を持つために欠かせませんが、家庭で何冊もの本を購入したり揃えたりすることは、家庭の経済事情もあり難しいと考えられます。図書館には

多様なジャンルの豊富な図書が備わっています。それぞれの子どもが、興味を持てる本との出会いも期待できます。小さい頃から家族と一緒に図書館を利用することにより、子どもの生活の中に、図書館利用が根付き、本を読んだり、本で調べたりする習慣が身に付いていきます。

(4) 重点施策と施策内容

町では、各家庭において子どもの読書活動を具体的、積極的に取組んでいくことができるよう、次のような重点施策により、支援していきます。

重点施策

- ① 家庭教育支援の一環としての子どもの読書活動の啓発
 - ・家庭教育推進事業
- ② ブックハローの開催
- ③ 保護者を対象とした読み聞かせ講習会や読書講演会等の開催
- ④ 家庭における読書活動の大切さについての広報・啓発
 - ・図書館だより、広報、HP、チラシ、パンフレット等
- ⑤ 発達・成長段階に応じた読み聞かせや図書リストの作成と提供
 - ・図書館推薦図書 ・「絵本を楽しむ会」おすすめ絵本
- ⑥ 親子対象のおはなし会・読み聞かせの実施
 - ・図書館、育児サークル、子育て支援センター等でのおはなし会
- ⑦ 「ファミリー読書デー」(仮称) の推進



施策内容

① 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発

施策・事業名	施策・事業のねらいと内容	所管	状況
家庭教育推進事業	子育て支援の一環として、妊婦や乳幼児・園児の保護者などを対象とした絵本や読み聞かせ等講演会の実施や、読み聞かせ会など親子が触れ合う機会の提供を通じ、読み聞かせや読書の重要性についての理解の促進を図ります。	社会教育・スポーツ課 (家庭教育推進協議会)	継続
ブックハロー	健康増進センターで毎月開催される7ヶ月児相談時に、保護者を対象として絵本の読み聞かせの大切さなどを図書館職員が話し、親子に絵本の読み聞かせを行います。また、図書館おすすめの絵本の紹介と絵本リストを配布し、絵本の読み聞かせを通じた親子のスキンシップとコミュニケーションを勧めていきます。さらに、絵本などのプレゼントを行い、ブックスタート※への拡充に努めます。(ブックスタートとは、赤ちゃんと保護者にメッセージを伝えながら、ブックスタートパックに入った絵本を手渡す運動。詳細は、乳幼児健診における読書活動の取組に記載)	図書館 環境保健課 社会教育・スポーツ課	拡充

出前絵本講座・読み聞かせ講習会	育児サークルのピコロ・びよびよクラブや保育園等の要請に応じ、図書館職員が、絵本の読み聞かせの重要性に関する講話、絵本の選び方、年齢別おすすめの絵本の紹介、絵本リストの配布、絵本の読み聞かせ等を行い、読み聞かせや絵本に対する理解や関心を深める啓発活動を行います。	図書館	拡充
広報・啓発	図書館だより、乳幼児の保護者対象の図書館だより「ほんわか」、「子どもの読書活動推進実行委員会」発行のチラシやパンフレット、図書館のホームページを通じ、読み聞かせや読書の大切さ、意義について広く普及を図ります。また、読書関連事業に関する情報を提供します。	図書館 社会教育・スポーツ課 子どもの読書活動推進実行委員会	拡充
おすすめ本リストの発行と提供	家庭で子どもの本を選ぶ参考になるように、年齢別や学年別、テーマ別のおすすめ図書リストを発行し、家読（うちどく）の読書ガイドブックとして利用に供します。また、乳幼児の保護者「絵本を楽しむ会」おすすめの絵本を幼児の保護者版図書館だより「ほんわか」や図書館のHP「よちよちメニュー」などで紹介していきます。	図書館	拡充

② 子どもが読書に親しむ機会の提供

施策・事業名	施策・事業のねらいと内容	所管	状況
ヨチヨチおはなし会	就園前の乳幼児とその保護者を対象に、絵本の読み聞かせやパネルシアター、エプロンシアター、手遊び、わらべ歌などを行い、親子が触れ合う機会を通し、絵本との出会いを提供します。	図書館	継続
おはなし会・昔話会	幼児と小学生を対象として、ストーリーテリング（語り・素話）、紙芝居や絵本の読み聞かせなどを行い、おはなしに親しむ時間を通し、読書の入り口へ誘います。	図書館	継続
読み聞かせ	活動の中に絵本や紙芝居の読み聞かせを取り入れ、楽しみながら、おはなしや絵本に親しむ機会を提供します。	育児サークル 子育て支援センター	継続
「ファミリー読書デー」の推進	「ファミリー読書デー」（仮称）を設置し、家族そろって、読書に親しむ機会を設けるように広報などを通じ働きかけます。	町	新規



ピコロ・びよびよクラブにてミニおはなし会



ヨチヨチおはなし会（0歳～3歳未満児向け）